

中通総合病院

2025年9月11日

AYA世代がん医療部会

消化器外科 統括科長
緩和ケア委員会委員長
外来化学療法室長
ストーマ外来責任者
褥瘡対策委員会委員長

社会医療法人 明和会

中通総合病院 進藤 吉明

小児がんにおける妊孕性温存

- 秋田でも小児・AYA世代のがん患者に対する妊孕性温存療法費用に対する助成事業が開始された
- 白血病においても、妊孕性温存療法として女性では卵子凍結・受精卵凍結・卵巢組織凍結、男性では精子凍結を行うことが可能となってきた
- 一方でまだ自己決定のできない小児に対しての妊孕性温存に関する説明、理解を得ることは本人のみならず親に対しても非常に難しいのが現状であり全ての小児がん患者に正確な情報が届いているとはいえない

現疾患の診断中ならびに診断確定

治療開始まで時間が

ある

ない

卵子凍結

卵巢組織凍結
(成熟卵子が得られれば) 卵子凍結

獲得卵子数を加味

卵巢組織凍結実施

未熟卵子であれば
In vitro maturation IVM 未熟卵体外培養
In vitro follicle growth IVG 実施

実施せず

実施

現疾患治療へ

(成熟卵子が得られれば) 卵子凍結

未熟卵子であれば
In vitro maturation IVM 未熟卵体外培養
In vitro follicle growth IVG 実施

AYA世代がん患者に対する妊孕性温存療法（女性）

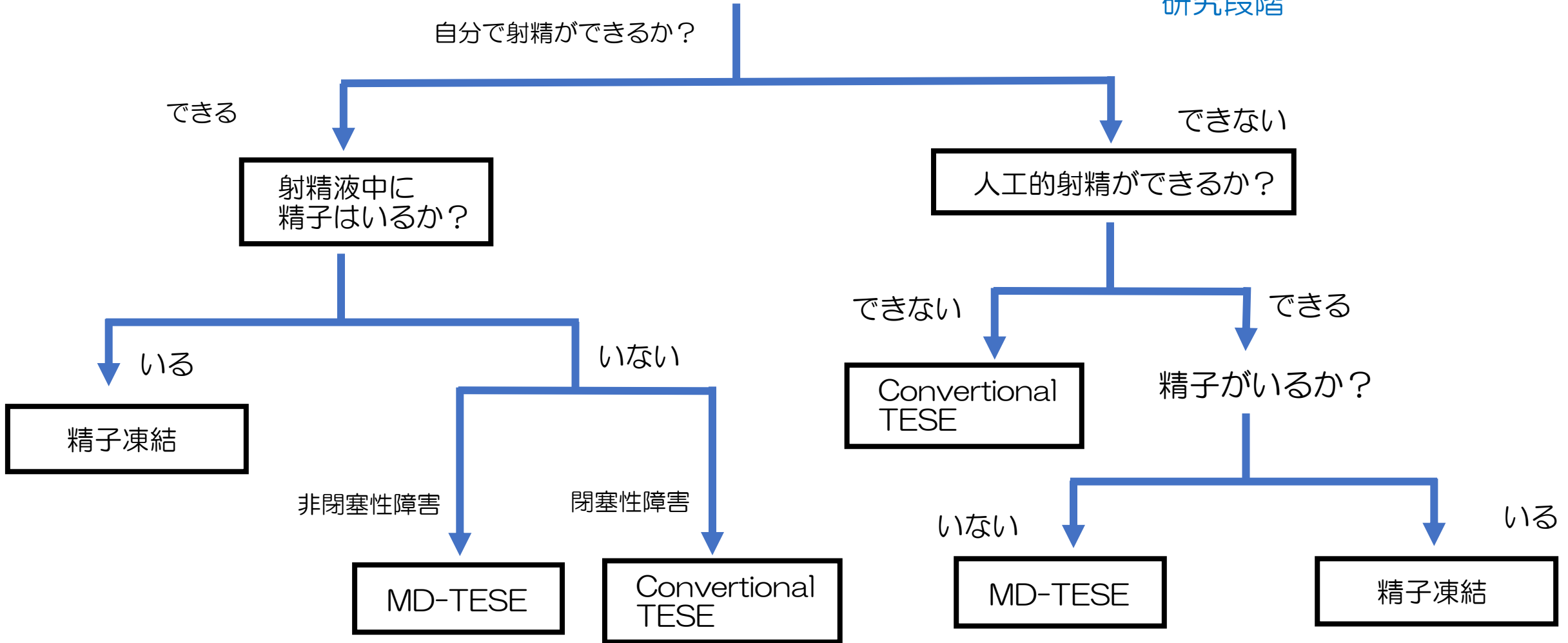
患者が将来パートナーを得て子供を希望し現疾患治療医師が妊娠許可を出す場合、かつ閉経している時のみ卵巢組織移植は考慮される。その際、血液腫瘍や腹腔内腫瘍が現疾患である場合、生殖医療を専門とする産婦人科医と十分にその適応を検討し、まずは獲得されている卵子を優先的に使用して妊娠を目指すことを検討する。

妊孕性に関する問題点

- 1) 患者の年齢、性別。
- 2) 移植前処置で放射線照射が必要
- 3) 両親への説明
- 4) 小児患者のケース：本人の理解や同意、
男児の精子保存（射精の問題）

現疾患の診断中ならびに診断確定

精巣組織凍結は可能であるが
研究段階



TESE : testicular sperm retraction
MD-TESE : micro dissection TESE

AYA世代がん患者に対する妊孕性温存療法（男性）
AYA世代の男性は性成熟が進んでいることを前提に上記を考えるが、必ずしもこれに順次ない場合が考えられ、必ず専門泌尿器医師に相談が必要である。

小児に対する妊孕性温存療法

- 女児では年齢に関係なく妊孕性温存療法が選べるようになった一方で本人の理解を得ないまま進まざるを得ない場合がある
- 男児では精子保存しかなく、自ら射精をして精子採取する必要がある